

令和元年度

知床半島先端部地区利用状況調査及び利用のあり方検討等業務

報告書



令和2年（2020年）3月

環境省 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
公益財団法人 知床財団

報告書概要

1) 業務名

令和元年度知床半島先端部地区利用状況調査及び利用のあり方検討等業務

2) 業務の目的

知床半島先端部地区（以下、「先端部地区」という。）は、原始的な自然環境の中で質の高い自然体験の機会を提供するため、先端部地区を利用する際のルールとして「知床半島先端部地区利用の心得」（以下、「利用の心得」という。）を定め、自然環境の保全とリスク軽減に向けて利用者への普及に努めてきた。

しかしながら、ルールである利用の心得の策定から10年が経過し、利用状況の変化や利用ニーズの多様化が見られる中、先端部地区のトレッキング利用に関しては近年事故が連続して発生している。このような中、2017年～2018年に開催された「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」において、ルールの見直しを進めつつも、事故発生に備えた対応方針の策定が早急に必要であるとの意見が出された。

本業務は、「知床世界遺産ルサフィールドハウス」（以下、「ルサフィールドハウス」という。）等での利用の心得に基づく情報提供や、知床半島先端部地区利用の心得 Web サイト通称「シレココ」（以下、「シレココ」という。）での普及活動に資するため、先端部地区の現地情報や利用状況等を調査するとともに、先端部地区におけるトレッキング利用者の事故への対応方針を検討するための検討会を開催し、事故発生時における対策マニュアル案を作成する。

3) 業務実施体制

本業務は、環境省からの請負業務として公益財団法人知床財団が実施した。

4) 実施概要

(1) 先端部地区利用状況調査

先端部地区利用者に対して聞き取り調査を15回実施した。調査に際して知床岬へのトレッキングコース上の難所の状況変化(落石や崩壊等)、ヒグマ出没情報等について確認した場合、その状況を記録し、ルサフィールドハウスへ情報を提供した。

(2) 先端部地区トレッキング利用者事故対策マニュアル案の作成

先端部地区トレッキング利用者の事故発生時の対策について、関係団体による検討会「知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会」を3回開催し、事故後の対応等を整理した事故対策マニュアル案を作成した。第1回目は2019年10月25日に羅臼町商工会館、第2回は2019年12月17日に知床羅臼ビジターセンター、第3回は2020年2月17日に知床羅臼ビジターセンターで開催した。

また検討会に係るヒアリングを関係団体に対して計22回(1回半日程度)実施した。

目次

はじめに	1
(1) 先端部地区利用状況調査	2
(2) 先端部地区トレッキング利用者事故対策マニュアル案の作成	8
1) 令和元年度（2019 年度）第 1 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催	9
2) 令和元年度（2019 年度）第 2 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催	12
3) 令和元年度（2019 年度）第 3 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催	14
4) 知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会に係るヒアリングの実施 ..	17
5) 先端部地区トレッキング利用者事故対策マニュアル案について	19
【知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応方針】	

添付資料

1. 令和元年度（2019 年度）第 1 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時検討会議事及び配布資料
2. 令和元年度（2019 年度）第 2 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時検討会議事及び配布資料
3. 令和元年度（2019 年度）第 3 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時検討会議事及び配布資料
4. 知床半島先端部地区トレッキング事故発生時検討会に係るヒアリング記録

はじめに

先端部地区は極めて原始性の高い自然環境と豊富な野生生物によって形成される多様な生態系が残されている地域であり、利用のための施設が設けられていないなど、一般の利用者による積極的な利用は想定されていない。一方で、知床ならではの質の高い自然体験の機会を求めて多様な利用者が訪れる場所でもあり、適正な利用と保全を図ることが必要である。

環境省では、原始性の高い自然環境の保全と質の高い自然体験機会の提供を両立するため、レクリエーションを目的として先端部地区を利用する際のルール「利用の心得」を定め、知床ルールとして先端部地区利用者への普及啓発を進めてきた。しかし現状では、先端部地区の不適切な利用による野生動物との軋轢や危険な事故事例なども発生しており、利用者へのより一層の利用ルールの啓発や先端部地区に関する情報提供が必要である。このように、先端部地区の利用にあたっては、自然景観の保全を前提とした一定ルールの下での適切な利用を基本方針としてきた。

しかしながら、ルールである利用の心得の策定から 10 年が経過しており、利用状況の変化や利用ニーズの多様化が見られることから、先端部地区を含めた知床国立公園の適正な利用のあり方について再検討する必要性が指摘されている。2017～2018 年度には先端部地区について地域内の意見を聴取する「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」を計 6 回開催しており、地域意見を取りまとめた。その中で、先端部地区のトレッキング利用に関しては近年事故が連続して発生していることから、ルールの見直しは進めつつも、別途、事故発生時に備えた対応方針の策定が必要であるとの意見が出された。

本業務は、先端部地区利用者に対する利用ルールの啓発や情報提供に資するため、ルサフィールドハウス等にて提供する先端部地区の現地情報や利用状況等を調査するとともに、先端部地区におけるトレッキング利用者の事故への対応を検討するための検討会を開催し、事故対策マニュアル案を作成するものである。

(1) 先端部地区利用状況調査

知床半島先端部地区における利用状況を把握するため、夏期利用シーズンである2019年7月中旬から8月の期間に、海岸トレッキングルート上の利用拠点における聞き取り調査を実施した。聞き取り調査は、7月中旬から8月の期間に、海岸トレッキングルート上であるモイレウシ湾にて9日、ペキン浜にて6日の計15日間調査を実施した。調査地までは、船舶または徒歩にてアクセスした。

調査項目は、パーティの人数、年代、アクセス方法、目的地、行動予定、ヒグマ対策の状況、ルサフィールドハウスへの立ち寄りの有無、利用の心得及びシレココの認知状況で、計8組、33名から回答を得た。

パーティの人数は、1名から12名と幅広く、年代も10代から70代までとの回答があった。アクセス方法は、7組中1組のみがシーカヤックであり、他の6組は徒歩によるトレッキングであった。目的地・行動予定について、徒歩の利用は、相泊－知床岬の往復が5組、相泊－ウーヌプリ経由－知床岬－相泊という行程が1組、不明が1組であった。

クマ対策については、聞き取りを行った8パーティすべてが対策を行っていた。昨年度と同調査では、7組中4組がクマ対策を実施していたが、今年度の調査では、昨年度よりクマ対策を行っている割合が高かった。(表1-1)

事前にルサフィールドハウスに立ち寄っていたのは、4組で全体の半数であった。昨年度と同調査で事前に立ち寄っていたのは7組中1組のみであった。

利用の心得・シレココを認知していたのは、8組中7組という高い割合であった。こちらも前年度は7組中2組しか認知していなかったことから、昨年度と比較して、利用の心得やシレココを認知した上で立ち入っているパーティが増加した。

表 1-1 先端部地区利用状況の聞き取り調査の対象者とその結果

日付	パーティの 人数	年代	アクセス 方法	目的地・行動予定	クマ対策	ルサ FH へ の立寄	心得、シレココ の認知
7/17	3	30代・40 代	徒歩	相泊→ウィースプリ往復 →知床岬→相泊	クマスプレー	有	知っている
7/23	1	40代	徒歩	相泊－知床岬往復	クマスプレー、 鈴、笛	有	知っている
8/1	2	20代	徒歩	相泊－知床岬往復	有	有	知っている
8/5	12	20～70代	カヤック	相泊－知床岬－ウトロ	クマスプレー	無	知っている
8/15	6	不明	徒歩	相泊－知床岬往復	有	無	知らない
8/16	2	30代・40 代	徒歩	相泊－知床岬往復	有	無	知っている
8/18	2	40代	徒歩	不明	クマスプレー	無	知っている
8/19	5	10代・20 代	徒歩	相泊－知床岬往復	有	有	知っている

以上の今年度の先端部地区利用状況調査の結果を見ると、クマ対策、ルサフィールドハウスへの立ち寄り、利用の心得・シレココの認知度の3項目について、昨年度より割合が高かった。しかしながら、本調査では10件未満の回答しか得られていないため、利用者全体の割合について同様に論じることは難しい。今後はさらに実情に沿うデータを得ることのできる調査手法の検討が望ましい。その結果から、どのような手段でレクチャー受講率を上げていくことができるのかといった対策の検討を行うことができるだろう。先端部地区に入域する前にルサフィールドハウス等に立ち寄ってレクチャーを受ける利用者を増やし、クマ対策や利用の心得についての説明を受け、先端部地区の特徴や危険な状況等についての知識を得てもらうことで、自然環境の保全や安全対策につなげていくことができる。

また、調査期間中、聞き取りの実施はできなかったが、沿岸を航行中の船舶から目撃した利用者のパーティ数とアクセス方法、目撃場所を表 1-2 にまとめた。

表 1-2 船舶から目撃した先端部利用者

No	日付	パーティ人数	アクセス方法	場所
1	7/15	3	徒歩	化石浜
2	7/16	3	徒歩	タケノコ岩
3	7/16	1	徒歩	滝の下
4	7/16	3	徒歩	クチャクリウス
5	7/17	2	徒歩	滝川
6	7/17	3	徒歩	滝の下
7	7/19	1	徒歩	観音岩
8	7/19	4	徒歩	モイレウシ
9	7/20	1	不明	滝の下
10	7/21	1	徒歩	観音岩
11	7/21	1	徒歩	近藤が淵
12	7/21	1	徒歩	モイレウシ
13	7/21	1	徒歩	タケノコ岩
14	7/25	1	徒歩	トツカリ瀬
15	7/29	4	徒歩	クズレ浜
16	7/29	2	徒歩	クズレ浜
17	8/1	2	徒歩	化石浜
18	8/1	2	徒歩	タケノコ岩
19	8/1	2	徒歩	メガネ岩
20	8/1	4	シーカヤック	赤岩
21	8/2	2	徒歩	中番屋
22	8/2	2	徒歩	タケノコ岩
23	8/2	2	徒歩	知床岬
24	8/2	2	徒歩	タケノコ岩
25	8/2	2	徒歩	ウナキベツ
26	8/2	2	不明	メガネ岩
27	8/3	2	徒歩	タケノコ岩
28	8/10	3	徒歩	化石浜
29	8/10	1	徒歩	クズレ浜
30	8/10	5	徒歩	観音岩
31	8/10	3	徒歩	メガネ岩
32	8/14	1	シーカヤック	観音岩
33	8/18	2	徒歩	クズレ浜

表 1-2 の続き 船舶から目撃した先端部利用者

No	日付	パーティ人数	アクセス方法	場所
34	8/18	2	不明	中番屋
35	8/18	5	徒歩	クズレ浜
36	8/19	13	徒歩	クズレ浜
37	8/19	2	不明	クズレ浜
38	8/19	5	徒歩	モイレウシ
39	8/21	4	徒歩	タケノコ岩
40	9/5	1	徒歩	モイレウシ

合計で 40 回、103 名の目撃があった。しかし、知床岬の徒歩利用は 3 日程度を要する行程のため、目撃記録には同じパーティを複数回目撃している可能性も十分に考えられる。

また、調査実施中に、利用の心得から逸脱した不適切な利用（たき火の実施、ゴミの投棄、番屋への宿泊、釣魚の投棄等）や難所の状況変化（落石や崩落等）は認められなかった。調査中に目撃したヒグマ出没状況については記録を行い、速やかにルサフィールドハウス及び知床羅臼ビジターセンターへ報告した。報告した目撃記録の一覧を下記に示す（表 1-3）。

表 1-3 船舶からのヒグマ目撃件数及び頭数

No.	日付	目撃件数	目撃頭数	時間帯
1	7/16	6	7	am
2	7/16	7	13	pm
3	7/17	10	12	am
4	7/17	5	5	pm
5	7/19	3	3	am
6	7/21	4	4	am
7	7/20	6	8	pm
8	7/20	5	5	am
9	7/21	3	3	am
10	7/21	5	9	pm
11	7/22	3	4	am
12	7/25	5	5	am
13	7/25	3	3	pm
14	7/25	5	8	pm
15	7/26	7	7	am
16	7/26	7	8	pm
17	7/27	3	4	pm
18	7/27	7	9	am
19	7/30	6	7	am

表 1-3 の続き 船舶からのヒグマ目撃件数及び頭数

No.	日付	目撃件数	目撃頭数	時間帯
20	7/30	8	10	pm
21	7/31	8	8	am
22	7/31	3	4	pm
23	7/29	1	1	am
24	7/29	3	3	pm
25	8/1	3	3	am
26	8/1	4	5	pm
27	8/2	2	2	am
28	8/2	7	9	pm
29	8/3	1	1	am
30	8/4	2	2	am
31	8/4	5	5	pm
32	8/5	6	6	am
33	8/5	4	8	pm
34	8/6	1	1	am
35	8/6	6	6	pm
36	8/7	5	6	am
37	8/10	1	1	am
38	8/10	3	4	pm
39	8/11	3	4	am
40	8/11	5	7	pm
41	8/14	3	3	am
42	8/14	3	3	pm
43	8/18	6	6	am
44	8/18	3	3	pm
45	8/19	1	1	am
46	8/19	2	2	pm
47	8/25	1	1	am
48	8/25	2	2	pm
49	8/24	5	5	pm
50	8/26	1	1	am
51	8/26	2	3	pm
52	8/27	2	2	pm
53	8/28	7	8	am
54	8/28	5	6	pm

表 1-3 の続き 船舶からのヒグマ目撃件数及び頭数

No.	日付	目撃件数	目撃頭数	時間帯
55	8/29	3	3	pm
56	8/30	2	3	am
57	8/30	6	7	pm
58	8/22	3	3	am
59	8/22	2	3	pm

(2) 先端部地区トレッキング利用者事故対策マニュアル案の作成

環境省担当官が指定する関係団体（表 2-1）による検討会を開催し、その結果を取りまとめるとともに、検討結果をもとに事故対策マニュアル案を作成した。知床羅臼町観光協会については協議の結果、検討会には参加せずマニュアル案の作成後に情報共有することとなった。

マニュアル案作成に当たっては、2016～2018 年度にかけて行われた「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」での議論や現行のルール（知床エコツーリズム戦略、先端部地区利用の心得など）を踏まえ、ヒアリングで得た意見等を反映させた。

ヒアリングは関係団体と日程を調整し、検討会開催の前後に適宜行った。本業務でのヒアリング実績は、計 22 回であった。

表 2-1 関係団体の一覧及び関係機関

区分	組織名
地域関係団体	・(公財) 知床財団 ・羅臼漁業協同組合 ・知床羅臼町観光協会 ・羅臼山岳会
関係行政機関	・羅臼町 ・北海道 ・林野庁北海道森林管理局 ・国土交通省北海道運輸局 ・羅臼海上保安署 ・北海道釧路方面中標津警察署 羅臼駐在所

検討会は、2019 年 10 月 25 日に羅臼町商工会館で 1 回、2019 年 12 月 17 日に知床羅臼ビジターセンターで 1 回、2020 年 2 月 17 日に知床羅臼ビジターセンターで 1 回の計 3 回開催した。

それぞれの会議の開催にあたって、開催日の日程調整や開催案内の発送、会議資料の作成、印刷等を行った。会議当日には、座席表に合わせた机の配置、ネームプレート設置、及び録音のための音響機器の設定を含む会議場の設営を行った。会議後には、議事録を作成した。

各会議の内容と結果について、以下に記す。

1) 令和元年度（2019年度）第1回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催

開催日時：2019年10月25日(金) 13:30～15:55

開催場所：羅臼町商工会館 2階会議室



写真2-1 第1回検討会の様子

議事次第

1. 開催の経緯について
2. 知床半島先端部地区について
3. 事故発生時の対応について
4. その他

出席者名簿

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 6名		
羅臼漁業協同組合	参事補	任田 勉
羅臼山岳会	会長	佐々木 泰幹
羅臼山岳会		涌坂 周一

(公財) 知床財団	事務局長	山中 正実
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部	部長	田澤 道広
(公財) 知床財団 企画総務部 公園事業係	係長	秋葉 圭太
【関係行政機関】15名		
羅臼町役場 総務課	課長	本見 奏敬
羅臼町役場 総務課	係長	丸山 晃
羅臼町役場 総務課	主事	黒田 一気
羅臼町役場 産業創生課	係長	藤本 茂典
羅臼町役場 産業創生課	主事	吉田 遼人
林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署	次長	横山 宏幸
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	渡邊 雄児
環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	高橋 すみれ
海上保安庁 羅臼海上保安署	次長	前田 英雄
北海道 根室振興局	主査	嶋 裕也
北海道 根室振興局	主事	目黒 敬大
根室北部消防事務組合 羅臼消防署	署長	白坂 俊夫
根室北部消防事務組合 羅臼消防署 警防課	係長	福山 勝利
根室北部消防事務組合 羅臼消防署 警防課	主査	不動 久義
北海道釧路方面中標津警察署 地域課 羅臼駐在所	北海道警部補	木村 尚哉
釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	<欠 席>

運営事務局	職名	氏名
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	係長	坂部 皆子
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	主任	江口 順子

※議事録の記述において、発言者の敬称・肩書等は省略しての記載とした。行政関係者の所属については、一部略称を使用した。

配布資料

- 資料 1 知床国立公園利用のあり方懇談会 議事概要（抜粋）
- 資料 2-1 知床半島先端部地区の概要
- 資料 2-2 知床半島先端部地区のレクリエーション利用について
- 資料 2-3 知床半島先端部地区利用の心得
- 資料 2-4 先端部レクチャー受講記録チェックシート（見本）
- 資料 3-1 過去の先端部地区トレッキング事故の概要
- 資料 3-2 過去の事故発生時に生じた課題・問題点
- 資料 3-3 知床半島先端部地区事故発生時の対応フロー案
- 参考資料 1 過年度事故発生時の報道状況
- 参考資料 2-1 行方不明者捜索活動マニュアル
- 参考資料 2-2 日本山岳会緊急時連絡網マニュアル
- 参考資料 3 IMO 捜索救助便覧
- 参考資料 4 有義波高

※議事録及び配布資料は、巻末に添付した。

会議概要

検討会開催の経緯や先端部地区の概要、利用状況、近年のトレッキング事故事例について情報共有を行った後、事故対策マニュアル案作成の趣旨について確認した。関係団体からは事故対策マニュアル案の一部となる「事故発生時の対応フロー」の内容を中心に活発な議論がなされた。

事故対応マニュアルの対象地域について羅臼側海岸部のみならず知床半島先端部全体を望む意見があったが、まずはトレッキング事故が発生している羅臼側海岸部を対象とし、様々な事象に対応可能なものへ改善を図ることで意見がまとまった。マニュアル内の対応フローは事故情報の集約と関係団体間の連絡調整を中心とする内容で進めることとなった。

また、遭難防止対策協議会（以下、「遭対協」とする）について、海岸部での事故は「山岳遭難」と扱われないため当該協議会としての出動が困難であるといった意見が出された。救助時のヒグマ出没に対する不安の声もあり、いずれもルールを確認し役割を整理した後、次の検討会でマニュアル案を再提案することとなった。

2) 令和元年度(2019年度)第2回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催

開催日時：2019年12月17日(火) 9:30～11:30

開催場所：知床羅臼ビジターセンター レクチャールーム



写真2-2. 第2回検討会の様子

議事次第

1. 事故発生時のマニュアル案本体について
2. 対応フローについて
3. 添付資料について
4. その他

出席者名簿

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 6名		
羅臼漁業協同組合	参事補	任田 勉
羅臼山岳会	会長	佐々木 泰幹
羅臼山岳会	副会長	涌坂 周一

羅臼山岳会	事務局	石田 理一郎
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部	部長	田澤 道広
(公財) 知床財団 企画総務部 公園事業係	係長	秋葉 圭太
【関係行政機関】12名		
羅臼町役場 総務課	課長	本見 奏敬
羅臼町役場 総務課	係長	丸山 晃
羅臼町役場 総務課	主事	黒田 一気
羅臼町役場 産業創生課	課長	大沼 良治
羅臼町役場 産業創生課	主事	吉田 遼人
林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署	次長	横山 宏幸
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	渡邊 雄児
環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	高橋 すみれ
海上保安庁 羅臼海上保安署	次長	前田 英雄
根室北部消防事務組合 羅臼消防署 警防課	課長	大室 晋
根室北部消防事務組合 羅臼消防署 警防課 警防係	主任	寺澤 裕介
北海道釧路方面中標津警察署 地域課 羅臼駐在所	北海道警部補	木村 尚哉
北海道 根室振興 地域総西部地域政策課	主事	<欠 席>
釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	<欠 席>

運営事務局	職名	氏名
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	係長	坂部 皆子
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	主任	江口 順子
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係		茂木 三千郎

※議事録の記述において、発言者の敬称・肩書等は省略しての記載とした。行政関係者の所属については、一部略称を使用した。

配布資料

資料1 知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応方針案

参考資料1 海上保安新聞

参考資料2 ヒグマ人身事故発生時の対応方針（案）

参考資料3 第1回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会 議事録

※議事録及び配布資料は、巻末に添付した。

会議概要

第1回検討会で議論した事故発生時対応フローの修正案と、新たに作成した事故状況連絡票、（案）知床半島先端部地区海岸トレッキング事故発生時対応MAP、事故発生時の緊急連絡先一覧を一式とするマニュアル案について意見を求めた。

事故連絡票を関係機関で共有する際の取り扱いについて、個人情報に注意を払う必要があるとの意見があった。また遭対協羅臼班の搜索出動については、対応方針に記載できるよう、遭対協羅臼班事務局と斜里支部との間で調整を進めるという方向性が示された。

その他、第1回検討会で意見に挙げた搜索時のヒグマ出沒に対する懸念は、「ヒグマ人身事故発生時の対応方針（案）」に基づいて対応する案が示された。

MAPについては知床岳までのルートも記載するほか、個人情報の観点から番屋の個人名は削除されることとなった。

3) 令和元年度（2019年度）第3回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の開催

開催日時：2020年2月17日（火） 15:00～17:00

開催場所：知床羅臼ビジターセンター レクチャールーム

議事次第

1. 事故発生時のマニュアル案について
2. 搜索・救助活動以外の協力について
3. その他

出席者名簿

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 5名		
羅臼漁業協同組合	参事補	任田 勉 <欠 席>
羅臼山岳会	会長	佐々木 泰幹
羅臼山岳会	副会長	涌坂 周一
羅臼山岳会	事務局	石田 理一郎 <欠 席>
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部	部長	田澤 道広
(公財) 知床財団 保護管理部	参事	中西 将尚
(公財) 知床財団 企画総務部 公園事業係	係長	秋葉 圭太
【関係行政機関】 10名		
羅臼町役場 総務課	課長	本見 奏敬 <欠 席>
羅臼町役場 総務課	係長	丸山 晃
羅臼町役場 総務課	主事	黒田 一気
羅臼町役場 産業創生課	主事	吉田 遼人
林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署	次長	横山 宏幸
林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署	羅臼森林官	柏谷 和信
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	渡邊 雄児 <欠 席>
環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	高橋 すみれ
海上保安庁 羅臼海上保安署	次長	前田 英雄
根室北部消防事務組合 羅臼消防署	消防署長	白坂 俊夫
根室北部消防事務組合 羅臼消防署 警防課	課長	大室 晋
北海道釧路方面中標津警察署 地域課 羅臼駐在所	北海道警部補	木村 尚哉
北海道 根室振興局 地域総西部地域政策課	主事	目黒 敬大 <欠 席>

釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	西崎 渉 <欠 席>
--------	-----------	---------------

運営事務局	職名	氏名
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	係長	坂部 皆子
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係	主任	江口 順子
(公財) 知床財団 羅臼地区事業部 公園事業企画係		茂木 三千郎

※議事録の記述において、発言者の敬称・肩書等は省略しての記載とした。行政関係者の所属については、一部略称を使用した。

配布資料

資料 1 知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応方針案

資料 2 捜索・救助活動以外で協力できる事項

参考資料 1 先端部地区のヒグマ出没時の対応について

参考資料 2 第 2 回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会 議事録

※議事録及び配布資料は、巻末に添付した。

会議概要

第 1 回、第 2 回検討会で出た意見を包括したマニュアル内容の最終確認を行った。遭対協羅臼班の捜索出動について、斜里支部との調整の結果、先端部地区の事故を「山岳遭難」として扱い、対応方針に遭対協と明記されることとなった旨の報告がなされた。また、マニュアルは基本的に構成員のみで共有し、一般利用者に配布するものではない旨を確認のうえ、マニュアル案は全会一致で承認された。

トレッキング事故発生時は本検討会で策定されたマニュアルを活用し、関係団体の連携のもと迅速な対応を行うこと、救助訓練等を踏まえて適宜マニュアルを更新していくことが確認された。シーカヤックや登山事故についてもマニュアルの必要性が挙げられたが、基本的には個別作成はせず、当該マニュアルを運用することとした。

その他、関係団体による捜索・救助活動以外の協力事項についても確認を行った事故を未然に防ぐために利用者や町民等へ情報収集を積極的に促すことや、ヒグマの危険がある際は各機関の HP 等を用いて利用自粛を依頼する等、町全体での取り組みが必要であることが求められた。

4) 知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会に係るヒアリングの実施

知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会の前後に関係団体へのヒアリングを実施し、意見の集約を行った。実施回数は計 22 回、ヒアリング先と内容は以下の通り（表 2-2）。ヒアリング記録の詳細は、巻末に添付した。

表 2-2 ヒアリング実施先と内容

No.	実施日時	ヒアリング先関係団体	内容
1	2019 年 7 月 9 日	羅臼町役場	第 1 回検討会の開催について概要説明
2	2019 年 7 月 10 日	羅臼海上保安署 根釧東部森林管理署	第 1 回検討会の開催について概要説明
3	2019 年 7 月 16 日	羅臼駐在所	第 1 回検討会の開催について概要説明
4	2019 年 7 月 23 日	羅臼漁業協同組合	第 1 回検討会の開催について概要説明
5	2019 年 7 月 23 日	羅臼消防署	第 1 回検討会の開催について概要説明
6	2019 年 8 月 8 日	根室振興局	事故発生時の対応について意見聴取
7	2019 年 8 月 14 日	羅臼消防署	事故発生時の対応について意見聴取
8	2019 年 9 月 10 日	羅臼駐在所	事故発生時の対応について意見聴取
9	2019 年 9 月 12 日	羅臼漁業協同組合	事故発生時の対応について意見聴取
10	2019 年 9 月 17 日	羅臼山岳会	事故発生時の対応について意見聴取
11	2019 年 9 月 17 日	羅臼町役場	事故発生時の対応について意見聴取
12	2019 年 9 月 18 日	根釧東部森林管理署	事故発生時の対応について意見聴取
13	2019 年 9 月 24 日	羅臼海上保安署	事故発生時の対応について意見聴取
14	2019 年 12 月 5 日	羅臼海上保安署	第 1 回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
15	2019 年 12 月 6 日	羅臼消防署	第 1 回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
16	2019 年 12 月 6 日	羅臼駐在所	第 1 回会議の結果とマニュアル案について意見聴取

表 2-2 の続き ヒアリング実施先と内容

No.	実施日時	ヒアリング先関係団体	内容
17	2019年12月9日	羅臼町役場	第1回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
18	2020年2月6日	羅臼漁業協同組合	第2回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
19	2020年2月12日	羅臼町役場	第2回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
20	2020年2月13日	羅臼海上保安署	第2回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
21	2020年2月13日	羅臼消防署	第2回会議の結果とマニュアル案について意見聴取
22	2020年2月13日	羅臼駐在所	第2回会議の結果とマニュアル案について意見聴取

5)先端部地区トレッキング利用者事故対策マニュアル案について

前述の3回の検討会、及び関係機関・団体へのヒアリングに基づき「マニュアル案」として「知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応方針（案）」（以下、「対応方針案」とする）を作成し、2020年2月17日の第3回知床半島先端部地区トレッキング事故発生時対応検討会において合意された。

本対応方針案の作成にあたっては搜索活動がより迅速に行われることを重視し、事故情報集約の流れと関係団体間の連絡調整やそれぞれの対応についてわかりやすく系図化することに留意した。また、先端部地区の地理的特性から整理が難しかった遭対協の出動について調整を図り、搜索時のヒグマ出没に対応する体制についても対応方針に編入した。

なお、3回の検討会を通して出された意見の中から、今後の課題として下記の内容が挙げられる。

- ・事故の発生を防ぐ仕組み作りが必要である。利用者への事前レクチャーを義務付ける、悪天候が予想される場合やヒグマの危険がある際は先端部への立入りを制限する等の仕組みを地域と行政が協働で作ることが求められる。

また、本対応方針の運用に向けて、次のような連携が必要との意見があった。

- ・対応方針をベースにした救助訓練の実施
- ・ヒグマ出没時の対応に関する研修の受講

いずれの内容も関係機関は協力的であるため、実施の折には対応方針の点検・修正も併せて行う予定である。

令和元年度 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：令和元年度知床半島先端部地区利用状況調査及び利用のあり方検討等業務

事業期間：令和元（2019）年6月14日～令和2（2020）年3月27日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356

北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩字別 531 番地



リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料（A ランク）のみを用いて作製しています。